

「人作り・人材育成」－研修業務への我々の取り組み－

(2ページより続く)

研修は言うまでもなく、「人作り」を主要な目的として行われ、技術や知識の習得をめざしているが、特に途上国の場合往々にして、技術単体では解決できないこともままあるのも事実である。したがって、研修員が研修を受けた後、それをどのようにその後の業務に生かしていくか、あるいはプロジェクト形成していくか、というテーマも重要である。つまり、単なる技術や知識の習得だけでなく、その研修をきっかけにしてそこから何か新しいものが始まることも重要であり、そしてそのための支援も必要となる。したがって、研修を受ける研修員が単に「技術」を研鑽するだけでなく、「触媒作用」としての研修という考え方が重要ではないだろうか。例えば、筑波研修センターで受講した研修が引き金となって、研修員がそれぞれの国に戻ってから、現地で研修成果を生かしたプロジェクトが展開される、というようなことは期待できないだろうか。あるいは、今後の研修事業を考える場合に、計画段階から現地での活動も組み合わせた形のプログラムとして進めていくことも考えられる。こうした、研修の有機的活用ということをより積極的に考えて実行に移していくべきであろう。

新経営体制とホームページ開設のお知らせ

国際耕種株式会社は、本年12月14日で創立20周年を迎えることになりました。1984年の創立以来、中近東やアフリカ諸国などの乾燥地域を中心に活動を行っており、これら地域の発展途上国における農業、林業、農村開発、地域計画、環境保全などの分野での技術協力に参画してきました。ここまで、こうしてやって来ることが出来ましたのも、皆様方のご支援とご理解のお陰と深く感謝いたしております。

創立20周年という節目の年に当たる今年、経営体制の刷新を図り今後とも社員一同心をひとつにして国際協力の一翼を担おうと思いを新たにしております。皆様方の変わらぬご協力、ご支援を賜りますよう御願ひ申し上げます。8月9日開催の第21回定時株主総会ならびに取締役会におきまして、弊社の新経営体制が以下のように決まりましたので、お知らせいたします。

代表取締役	大 沼 洋 康
取 締 役	財 津 吉 壽
取 締 役	湖 東 朗
監 査 役	米 倉 伸 子

最近の主な動きとしては、オマーン国マングローブ林再生・保全・管理計画調査に、共同企業体構成員として参画することができました。また、シリア国においては節水灌漑がらみの業務に長期に渡って関わっており、この経験を基にパキスタンやタジキスタンにおける同分野での案件発掘にも携わっています。さらに、研修指導業務にも力を注ぎ、筑波国際センターにおけるタジキスタン国別特設野菜栽培コース、南部アフリカ地域別特設野菜畑作技術コース等の農業研修コースに加え、家畜改良センターでの飼料作物生産・利用技術コースの講義等を実施してきました。一方、国内においては我々の活動を広く理解してもらおうと併に今後の海外技術支援活動を担うべき若手技術者育成の観点に立ち、大学から乾燥地農業や資源管理に関わる講義の依頼を受け、これを実施しています。

これまで国際耕種として関わってきたプロジェクトの概要や1995年以来発行しているニュースレターの内容についても皆様に容易にアクセスして頂けるよう、この度ホームページを開設いたしました。どうぞ、気軽にのぞいてみて下さい。今後とも国際耕種をご支援頂けますよう心より御願ひ申し上げます。

ホームページのアドレスは、<http://www.koushu.co.jp>です。